

養育行動を描いた絵本について

—家庭科保育学習教材としての検討—

(家政教育講座) 金子省子

On children's picture books about childcare

—The availability for teaching materials of childcare study in home economics education—

Seiko KANEKO

(平成 29 年 10 月 31 日受理)

抄録：中学校・高等学校家庭科の保育学習においては、主に幼児とのかかわりで絵本を位置づけた学習が行われている。しかし、中学生・高校生自身にとっての子育ち・子育てについての理解を促す教材という点からの検討は十分ではない。本稿の目的は第 1 に、授乳という養育行動に焦点化し、絵本に描かれた授乳像を明らかにすること、第 2 に、これをもとに家庭科保育学習の教材という点から検討を行うことである。「児童書総合目録」をもとに、46 冊の絵本を抽出・収集し分析対象とし、登場人物（動物）、描写の視点および主題より分類・整理し全体的な傾向を捉え、絵本に描かれた授乳像を検討した。その結果、多様な主題がみられ、乳児期の親子のかかわりが具体的に描かれることなどから生育史をたどる学習をはじめ子育ち・子育てを理解する上で活用できると考えられた。一方、母親と共に描かれた子どもの多くが男児で、女兒は将来の母親という描かれ方であるなど性別による相違があること、母乳以外の栄養法の親子への配慮が一部の絵本にみられるものの父親不在の描き方であるなど、保育学習教材として活用する上では、ジェンダーに敏感な視点や多様な養育環境を視野に入れた位置づけが必要であることを指摘した。

キーワード： 絵本 (picture books)、家庭科 (home economics education)、保育学習 (childcare study)
母乳哺育 (breastfeeding)

研究目的

絵本は主に子どもの楽しみのもので普及しているが、同時に発達上有益な児童文化財としての期待もある。また、おとなを読者に想定した絵本や用途を特定した絵本など多様な絵本が出版されている。

学校教育においても、幼児対象に限定されず活用されており、家庭科教育については衣食住の学習で絵本を用いた授業実践があり、家族を描いた絵本についての教材

としての検討も行われている。一方、家庭科保育学習で絵本を取り上げる際には、幼児のための絵本についての学習が行われている。具体的には、子どもの発達と絵本について理解したり、絵本製作や読み聞かせの練習をして保育所・幼稚園でのふれ合い体験に活かすなどの授業実践がみられる¹⁾。これは生徒が現在、そして今後の幼児とのかかわりにおいて活用するという観点での絵本の位置づけであり、家庭科の他の領域や他の教科等とは異なる

絵本にかかわる学習の側面である。

絵本は絵と文章により読み手に情報を伝えるものであり、情動的な面を含めたメッセージを伝える力を持ち、読み聞かせの場合には、読み手の声や聞き手とのやりとりを含めた状況の中で活かされる。そして、おとなと子どもの絆を深める媒体ともなる。保育学習において「子ども向け」絵本の選択や製作を行い読み聞かせる過程で、中学生・高校生もまた、影響を受けると考えられるが、同時に生徒自身の理解を深める教材として子育て・子育てを描いた絵本の活用を検討することができるのではないかと考える。

そこで、本稿では養育行動、特に授乳について描いた絵本に焦点を当てて分析を行いたい。

授乳は、養育にかかわる支援において、中心的な支援課題の1つである。そして、子どもの生命にかかわる養育行動であって、家庭科保育学習においても、母子保健分野においても時代状況を反映した情報提供がされている養育行動である²⁾。また、授乳についての母親への期待は養育期待の史的な変化を捉える際の指標として探究されてきた養育行動でもある。日本語の授乳という用語は母乳授乳に限定され使用される場合もあるが、ここでは、母親による母乳授乳に限定せず多様な栄養法を含むものとして使用する。

本稿では、このような授乳にかかわる絵本の分析を行い、どのように授乳が描かれているかを捉え、今後の家庭科保育学習における絵本を位置づけた実践に向けての基礎資料としたい。

研究方法

「児童書総合目録」(国際子ども図書館のほか、日本国内で児童書を所蔵する国際児童文学館など7機関が所蔵する児童書・関連資料によるもの)をもとに、乳房、母乳、授乳を意味する「おっぱい」を検索語として46冊の絵本を抽出・収集し分析対象とした。

調査時期は2016年9月から12月で、資料の発行年は1981年から2014年だった。書名、著者名、出版社、発行年を表1に示した。なお、発行年順に資料番号を付している。

結果・考察

絵本は前述のように、絵と文章より成り立つ(時に絵のみの絵本もある)が、ここでは文章を中心として分析を

行う。

1. 登場人物(動物)、視点および主題

登場人物(動物)、描写の視点および主題について分類・整理することで、現在出版されている授乳関連絵本の全体的な傾向を捉えた。

(1) 登場人物(動物)

今回分析対象とした絵本のなかには、動物も多く描かれている。

登場人物(動物)については、人間以外の動物のみ、動物と人間、人間のみ、(人間も動物も登場しない)その他の絵本の4つに大別された(表2を参照)。

人間以外の動物のみが登場する絵本(a)は、14冊だった(資料5, 7, 10, 11, 12, 14, 15, 17, 20, 21, 25, 32, 37, 40)。

このうち、哺乳動物の授乳について、動物の母子を1種類だけ取り上げた絵本と多数の哺乳動物の母子が登場する絵本がある。哺乳動物の種類としては、子どもにも身近なイヌやネコのほか、サル、ウサギ、ヤギ、ウシ、ブタ、キリン、コウモリ、ラッコ、クジラなど動物園や水族館で出会うような水・陸の動物がみられる。絵ではなく写真を使用している絵本(資料5, 11, 12)もある。哺乳動物の母子が擬人化されて描かれている絵本もみられた(資料7, 11, 12, 17, 20)。

人間と動物が登場する絵本(b)は、今回分析した絵本のなかで最も多く16冊だった(資料2, 3, 4, 9, 16, 18, 19, 22, 27, 29, 30, 31, 33, 35, 39, 42)。

このうち人間と他の動物の授乳が同じ哺乳類として、並列的に描かれた絵本が多数あり(3, 4, 9, 18, 19, 22, 29, 31, 35, 39, 42)、飼い主としての人間が動物の親子にかかわる様子が描かれている絵本(資料2, 16, 30)もあった。

そのほか、哺乳動物以外の動物も登場していた。ニワトリのヒナが主人公となり、おっぱいがほしいと、いろいろな動物や人間の母親のところに出かけるというストーリー(資料33)や小学生たちが教室での疑問から学校でニワトリのおっぱいを探すという絵本(資料27)もあった。

人間以外の動物が描かれない、人間のみが登場する絵本(c)は10冊だった(資料1, 6, 8, 24, 34, 38, 41, 43, 45, 46)。描かれた人物としては母親と1人の子ど

表1 分析対象資料一覧

資料	書名	著者	出版社	発行年	資料	書名	著者名	出版社	発行年
1	おっばいじぞう	絵 秦芳子 原案 小西俊子	神戸新聞出版センター	1981	24	ぼくがおっばいをきらいなわけ	磯みゆき	ポプラ社	2001
2	やぎのしずか6とうさんのちちしほり	田島征三	偕成社	1983	25	ママだいすき	文 まど・みちお 絵 ましま せつこ	こぐま社	2002
3	おかあさんとあかちゃん	中谷千代子	福音館	1983	26	あかちゃんすくすく絵本 ばいばい おっばい 語りかけことば合わせ絵本	作 正高信男 絵 あきやま ただし	鈴木出版	2004
4	おっばいおっばい	わかやまけん	童心社	1983	27	にわとりのおっばい	山本省三	講談社	2005
5	ラッコだいすき	岩合光昭	小峰書店	1984	28	いっぱいおっばい	犬飼友	新風舎	2005
6	かこさとのからだところのえほん5 おとうさんのおっばい なぜあえるの	加古里子	農山漁村文化協会	1988	29	子どもの時間シリーズ おっばいのうた	作 たかぎ あきこ 画 かめかよこ	リーブル	2005
7	あかちゃんえほん こぶたのプーちゃんシリーズ2 おっばいばいばい	文 中島和子 絵 小出信子	ひかりのくに	1988	30	さいごのこいぬ	フランク・アシュ 訳 ほしかわなつよ	童話館出版	2005
8	かがくのとも傑作集 おっばいのひみつ	柳生弦一郎 おかあさんによんでもらうページ(山田真)	福音館	1989	31	絵本のおもちゃぼこ17 うしさんおっばいしほりましょ	作 穂高順也 絵 竹内通雅	ポプラ社	2006
9	タンポポえほんシリーズ おっばい	みやにし たつや	鈴木出版	1990	32	おっばいいっぱい	作 溝江玲子 絵 いるまがわゆりこ	ひさかたチャイルド	2007
10	ニラムおじさんのくらべてみよう「あれ」と「これ」①おおきい・ちいさい	本田照、村上康成	農山漁村文化協会	1991	33	おっばいいっぱいのみたないな	菅晃大	新風舎	2007
11	ほーら、大きくなったでしょ 1こいぬ	写真ジェーン・パートン 文アンジェラ・ロイ ストン 訳山口文生	評論社	1992	34	おとうとのおっばい	宮西達也	教育画劇	2007
12	ほーら、大きくなったでしょ 2こねこ	写真ジェーン・パートン 文アンジェラ・ロイ ストン 訳山口文生	評論社	1992	35	おかあさんのおっばい	文 ホ・ウンミ 絵 ユン・ミスク 訳おたけきよみ	光村教育図書	2008
13	かがくのとも傑作集 スプーンぼしとおっばいぼし	写真・文 八坂康彦 絵・構成 杉浦範茂	福音館	1992	36	わくわくたべものおはなしえほん7 そらのおっばい	作スズキコージ 絵 大畑いくの	農山漁村	2008
14	大きなあれこいぬのジャック	ジェーン・パートン 訳みやこ みな	こぐま社	1993	37	おっばいいいぬ	やまぐち みねやす	フレーベル館	2009
15	おかあさんとこいぬ1おちちをくっくつ	作 松野正子 絵 横内襄	童心社	1993	38	からだところのえほん14 おっばいのはなし	文 土屋麻由美 絵 相野谷由起	ポプラ社	2009
16	森のお医者さん⑥ おっばい、ふしぎいっぱい	写真・文 竹田津実 岩合光昭 いわむらかずお	国土社	1993	39	おっばい、みつけた	たんぼぼ(ミュージカル)おっばいみつけた」(2007)	文芸社	2009
17	ぴよんぴよんえほん10 もぐらちゃんのおておっばい	文 角野栄子 絵 佐々木洋子	ポプラ社	1994	40	こやぎがめえめえ	田島征三	福音館	2010
18	ふしぎ発見シリーズ⑤ どうぶつのおっばい	わしお としこ 中川志郎監修	アリス館	1996	41	おかあさんだいじょうぶ?	作 乳がんの親と子どものためのプロジェクト 絵 黒井健	小学館	2010
19	はじめの絵本1 おっばいちゅうちゅう	あべ弘士	小学館	1997	42	このおっばいだあれ	塚本やすし	サンマーク出版	2011
20	まめうしのおかあさん	あきやま ただし	PHP研究所	1997	43	おっばいちゃん	有田奈央	ポプラ社	2013
21	みんな おっばい のんでたよ	文 木坂涼 絵 木村しゅうじ	福音館	1999	44	バイバイ、おっばいさん	横田真紀	文芸社	2014
22	おっばいだいすき	文 しみずみちを 絵 はせがわともこ	教育画劇	1999	45	断乳卒乳の絵本 おっばいバイバイ Milky The Happy Weanin Story	作 武田舞 絵 今井未知・高村あゆみ 英訳伊藤由起子	ゲートジャパン	2014
23	あいいうおにぎり	作 ねじめ正一 絵 いとう ひろし	偕成社	2001	46	おっばいばいばい	作 みついいゆきこ 絵 くぜ じゅんき	グランまま社	2014

表2 登場人物・視点・主題

資料	書名	登場人物	視点	主題	資料	書名	登場人物	視点	主題
1	おっばいじぞう	c	イ	②	24	ぼくがおっばいをきれいなわけ	c	ア	③
2	やぎのしずか6 とうさんのちしほり	b	エ	①	25	ママだいすき	a	ア	②
3	おかあさんとあかちゃん	b	エ	①	26	あかちゃんすくすく絵本 ばいばいおっばい 語り かけことば合わせ絵本	d	エ	⑦
4	おっばいおっばい	b	ア	②	27	にわとりのおっばい	b	エ	①
5	ラッコだいすき	a	エ	①	28	いっばいおっばい	d	エ	⑦
6	かこさとしのからだところのえほん5 おとうさん のおっばい なぜあるの	c	エ	④	29	子どもの時間シリーズ おっばいのうた	b	ア	②
7	あかちゃんえほん こぶたのプープちゃんシリー ズ2 おっばいばいばい	a	ア	③	30	さいごのこいぬ	b	ア	①
8	かがくのとも傑作集 おっばいのひみつ	c	エ	④	31	絵本のおもちゃぼこ17 うしさんおっばいしほりま しよ	b	エ	⑥
9	タンポポえほんシリーズ おっばい	b	ア	③	32	おっばいっばい	a	ウ	①
10	ニラムおじさんのくらべてみよう「あれ」と「これ」① おおきい・ちいさい	a	エ	①	33	おっばいっばいのみたいな	b	ア	①
11	ほーら、大きくなったでしょ 1こいぬ	a	ア	①	34	おとうとのおっばい	c	ア	③
12	ほーら、大きくなったでしょ 2こねこ	a	ア	①	35	おかあさんのおっばい	b	ア	①
13	かがくのとも傑作集 スプーンぼしとおっばいぼし	d	エ	⑥	36	わくわくたべものおはなしえほん7 そらのおっばい	d	エ	⑥
14	大きなあれこいぬのジャック	a	エ	①	37	おっばいぬ	a	イ	①
15	おかあさんとこいぬ1おちちをくっくつ	a	エ	①	38	からだところのえほん14 おっばいのはなし	c	ア	④
16	森のお医者さん⑥ おっばい、ふしぎいっばい	b	エ	①	39	おっばい、みつけた	b	ア	②
17	びよんびよんえほん10 もぐらちゃんのおてとおっ ばい	a	ア	③	40	こやぎがめえめえ	a	ア	①
18	ふしぎ発見シリーズ⑤ どうぶつのおっばい	b	エ	①	41	おかあさんだいじょうぶ?	c	ア	⑤
19	はじめの絵本1 おっばいちゅうちゅう	b	エ	①	42	このおっばいだあれ	b	ア	①
20	まめうしのおかあさん	a	ア	②	43	おっばいちゃん	c	ア	②
21	みんな おっばい のんでたよ	a	エ	①	44	バイバイ、おっばいさん	d	イ	③
22	おっばいだいすき	b	ア	②	45	断乳卒乳の絵本 おっばいバイバイMilky The Happy Weanin Story	c	イ	③
23	あいうえおにぎり	d	エ	⑦	46	おっばいばいばい	c	イ	③

登場人物/a:動物 b:人間・動物 c:人間 d:その他 視点/ア:子ども イ:母親 ウ:母と子 エ:その他
主題/①授乳と子どもの成長 ②母子の愛情 ③卒乳 ④乳房・母乳の説明 ⑤母親の病 ⑥乳房・母乳のイメージ ⑦言葉遊び

もが描かれた絵本(資料 1, 38, 45)、きょうだいや父親、
 その他のおとも登場する絵本(資料 6, 8, 24, 34, 41,
 43, 46)があった。

人間も動物も登場しない絵本(d)は、6冊だった(資
 料 13, 23, 26, 28, 36, 44)。これらのなかには、生物
 ではなく、「おっばい」という音にまつわる言葉遊びのよ
 うな絵本が複数みられた(資料 23, 26, 28)。また、視
 覚的に、星座(カシオペア座)を乳房になぞらえて「お
 っばいぼし」と名づけて描いた絵本(資料 13)があった。
 実在の生物が登場しない母乳・授乳のイメージを描いた
 ものとして「そらのあかちゃん」と「そらのおかあさん」
 が描かれた絵本(資料 36)、乳房に手足がついたような
 「おっばいさん」が描かれた絵本(資料 44)があった。

(2) 視点

絵や文章が子どもや母親など誰の視点から描かれてい
 るかをもとに4つに分類した。ア子どもから、イ母親か
 ら、ウ母子双方からとし、これらに該当しない第3者的
 な表現や説明的な文を、エその他と分類した(表2参照)。

その結果、子どもの視点から描かれたものが最も多く、
 21冊(資料 4, 7, 9, 11, 12, 17, 20, 22, 24, 25,
 29, 30, 33, 34, 35, 38, 39, 40, 41, 42, 43)だっ
 た。主に母親の視点から描かれたものは5冊(資料 1,
 37, 44, 45, 46)と少なく、母子双方の視点がみられる
 ものが1冊(資料 32)だった。その他が19冊(資料 2,
 3, 5, 6, 8, 10, 13, 14, 15, 16, 18, 19, 21, 23,
 26, 27, 28, 31, 36)だった。

(3) 主題

主題について、次の7つを捉えた。①授乳と子どもの
 成長(20冊)、②母子の愛情(8冊)、③卒乳(8冊)、④
 乳房・母乳の説明(3冊)、⑤母親の乳房の病(1冊)、⑥
 乳房・母乳のイメージ(3冊)、そして⑦言葉遊び(3冊)
 である(表2参照)。

これら7つの主題と先に捉えた登場人物(動物)に関す
 る分類(a~d)、および視点(ア~エ)の組み合わせを念
 頭に主題別に以下に整理していく。

①授乳と子どもの成長

1種類の哺乳動物の母親と子どもが描かれて授乳(哺
 乳)で成長することを描いた絵本(資料 5, 7, 11, 12,
 14, 15)のほか、多種類の母子の授乳(哺乳)場面を次々
 と描き、たくさんの種類の動物たちが授乳で育つことを

紹介している絵本があった(資料 21, 40)。このほかあ
 る動物(イヌ、ブタ)の母親に、いろいろな動物の子ど
 もが授乳してもらう絵本もあった(資料 32, 37)。表2
 のように、描写の視点としては母子双方(ウー①)は資
 料 32のみで、子どもの視点(アー①)、その他(エー①)
 に分かれた。

②母子の愛情

日本語の「おっばい」は、母乳、乳房そして授乳(哺
 乳)のいずれの場合にも使用される。このように多義的
 な「おっばい」を中心に、子どもの母乳や乳房へのあこ
 がれと母親への思いを描いた絵本があった。

具体的には、人間の子どもの主人公で、多種類の動物
 の母(子)が描かれて、人間の子どもの自分の母親を探
 したり、自分の母親が一番であるというストー
 リー(資料 4, 22, 29, 39)や、1種類の動物の母子が
 擬人化されて描かれて、最後に自分の母親が一番とわか
 るというものがあった(資料 20, 25)。説明的な①とは
 異なり、乳房の柔らかさ、温かさ、良いにおいなどの五
 感による子どもの言葉や表情が描写され、子どもの母親
 への思いとして描かれている。

このほか、女兒が自分の母親と母親の「おっばい」に
 憧れ母親のようになりたいと悪戦苦闘するお話(資料 43)
 や戦争を背景に、命をつなぐ母乳と母親の思いを託す願
 掛け地蔵を描いた絵本があった(資料 1)。

③卒乳

②のほとんどが子どもからの思いを中心に描かれてい
 るのに対し、卒乳をめぐる人間の母子が描かれた絵本で
 は、子どもの思いを中心に描かれた絵本(資料 24, 34)
 と母親の思いを中心に描かれた絵本(資料 45, 46)があ
 った。動物の子どもの卒乳の絵本(資料 7, 17)では、
 それぞれブタとモグラの子どもが擬人化されて名前がつ
 けられていたり、子どもの視点から乳房への執着が描か
 れていた。これに対し、資料 9では、動物の子どもの母
 乳で大きくなる様子をみながら、人間の子どもの(おにい
 ちゃん)が「自分をおおきくしてくれたおっばい」を自
 分も「弟にすこしかしてあげる」という気持ちになる
 という場面があった。

このほか、乳房に手足のついた「おっばいさん」が人
 間の子どものもとにあらわれ、やがてさよならをしてい
 くという絵本(資料 44)があった。

④乳房・母乳の説明

①でみたような哺乳類としての人間の子どもが授乳により成長するというだけでなく、乳房と母乳分泌のしくみや男女の身体的な相違に触れる内容の絵本もみられた(資料 6, 8, 38)。1980年代に出版された資料 6 や 8 は、一般に、科学絵本や性教育絵本に分類されるものである。2009年出版の資料 38 は、助産師が作者となっている。

⑤母親の乳房の病

特定の読者を想定してのメッセージをこめた絵本として『おかあさんだいじょうぶ?』(資料 41)がある。これは、乳がんの親と子どものためのプロジェクトと絵本作家の黒井健によるもので、乳がんにより入院・手術をした母親と家族の日常生活を描いたものである。子どもにも親の病を理解しやすいように、主に子どもの視点から描かれている。

⑥乳房・母乳のイメージ

資料 31 は、「まきばのぎゅうにゅうやさん」がいろいろな食べ物を牛に与え、そのたびに変わった牛乳が出てきて、最後には音楽隊を飲み込んで、きれいな音楽が出てくるというユーモラスな絵本である。資料 36 は、子どもがたくさんいる「そらのおかあさん」の「そらのあかちゃん」が地上に落ちてきて、おばあさんがこれを受け止め、村中の動物や人間のお乳をあげて世話をして空へと見送ると、翌日空からおっぱいの雨が降ってくるという絵本である。これらは、いずれも村の牛乳屋さんやおばあさん、村の動物や人間がたくさん登場するもので、牛の乳やそらのおかあさんの乳という乳汁のイメージをダイナミックに描いている。このほか、星座(カシオペア座)の視覚的なイメージを乳房の形になぞらえた絵本(資料 13)もあった。

⑦言葉遊び

「おっぱい」という音を中心に描いた絵本(資料 23, 26, 28)があり、子どもになじみの深い言葉として、言葉遊びを楽しむような音と絵を組み合わせた絵本になっている。

以上のように、3つの観点から分類し全体的な傾向を捉えた。登場人物(動物)は主に母子であるが、人間だけでなく、多様な動物が描かれていること、多様な主題があることがわかった。視点として、その他と分類したもの

が多いのは、主題で捉えた言葉遊びや乳房・母乳についての説明的な絵本が含まれており、授乳と子どもの成長についても動物の授乳など説明的に描かれているものが多くみられたためである。また、子どもの心情に即した子どもからの視点に比べると、母親の心情に即し母親からの視点で描かれたものは少ないことが捉えられた。

今回対象とした絵本が主に想定している対象はおとなに読み聞かせをしてもらう幼児を中心に小学校低学年くらいまでと考えられる。内容的にもリアルタイムというよりは、かつて母乳を飲んでいて自分、すこし前までの自分の出来事として受け止める場合が多いと思われる。また、卒乳を描いた絵本や一部に親に向けたページがあるものなど、親やおとな向けを意識したものがあつた。

2. 絵本のなかの授乳の描かれ方

日本語の「おっぱい」の語は乳房、母乳、授乳のいずれについても使用されるものである。従って今回の分析では、授乳の実際や親子などを描いていない「おっぱい」をキーワードとした言葉遊びの絵本などについても分析対象としている。今回対象とした 46冊で、授乳のどのような側面が描かれているのかを考察していく。

第1に、哺乳動物としての特徴としての授乳(哺乳)の側面が挙げられる。動物と人間の授乳(哺乳)の絵を並べて描いている絵本では、哺乳動物としての生命の維持と子どもの成長に不可欠なものとして授乳を描き、母子の姿を描いていた。また、哺乳動物以外の動物を登場させることで、哺乳動物の特徴としての母乳授乳を明確にしている絵本もあった。

資料とした絵本の刊行された1980年代以降は、世界的母乳推進の機運と施策を背景にしており、CMなどでもミルク授乳の姿は制限されている³⁾。幼い子どもとおとなが触れる絵本のなかでは、動物を登場させながら、哺乳動物としての人間の母子の姿を「自然」なこととして位置づけているのがわかる。

第2に、母子間の愛情や絆を示すものとしての授乳の側面である。動物が擬人化されたり、人間の子どもが母親の「おっぱい」を求める姿が描かれた絵本では、乳房と母乳、授乳(哺乳)行動が分かち難く描かれている。

主題の②だけでなく、③卒乳を描いた絵本においても母子間の愛情や絆を示すものとして授乳が描かれている。

母親の思いを中心に卒乳を描いた絵本は2010年代に

複数出版されている。授乳の時間を思い起こし懐かしみ、文字通り乳離れしていくことを寂しく思う気持ちと子どもの成長を喜ぶ気持ちを描いていた(資料 44, 45, 46)。

子どもの側の思いについては、卒乳への抵抗や下のきょうだいへの複雑な思いを描いており、自分の気持ちを抑えたり、甘えたりしながら納得していき、そのような自分を誇らしく思う姿が描かれていた。

あかちゃんについては、性別不明のものもあるが、幼児の母親への思いを中心に描かれた絵本では、性別のわかる子ども(あかちゃん、幼児)のほとんどは男児だった。

題名にもある「ぼくがおっぱいをきらいなわけ」(資料 24)、「ぼくがこのまえまでのんでたおっぱい、おおきく、やさしく、つよく、げんきにしてくれたぼくのだいすきなおっぱい」(資料 9)、「のんちゃん」(資料 22)、「ぼくのおっぱい」(資料 29)、そして「おとうとおっぱい」(資料 34)でも男の子と弟と母親が描かれている。動物の場合も性別を明らかにしているものは「ぼく」として描かれており、子犬の「ぼく」(資料 11)、子猫の「ぼく」(資料 12)、まめうしの「ぼく」(20)、ひよこの「ぼく」(資料 33)と表現されていた。

これに対し、女兒が描かれているのは資料 1、資料 38 と資料 43 である。資料 1 は、主人公が授乳するあかちゃんが娘として描かれている。資料 38 と 43 は女兒の心情や行動を中心に描かれている。資料 38 の作者は助産師であり、きょうだいが生まれる家族への出産準備教育、幼稚園・保育所・小学校などで性教育実践を行っている。

「わたしもおっぱいのでたんでしょ。どんなきもちだった」と母親にたずね、「いまでもときどきさわりたくなるのわたしのだいじなおっぱい」とその気持ちが描かれている。本の帯には「おかあさん、わたしもおおきくなったらおかあさんみたいなおっぱいになる？」とある。資料 43 では、主人公の「なっちゃん」が弟のお世話をしたくて、「ママみたいなおっぱいになりたい」とボールやクッションを胸に入れてみたりと奮闘し、祖父に「おっぱいちゃん」と大笑いされ、ママのようになれるとたくさん食べて、おっぱいではなくお腹が太ってしまうという絵本である。母親のような乳房になってあかちゃんのお世話がしたいという女兒のあこがれを描いているものである。

ところで、粉ミルクのような母乳以外の授乳の場合へのコメントを載せている絵本は 1 冊のみだった。『おっぱいのひみつ』(資料 8) では、裏表紙に「おかあさんによんでもらうページ」があり、そこには、小児科医の山田真のコメントとして、どうしても出ない人や病気で「どうしてもあげられないおかあさん」がいるのだし、すてきな子どもに育ったのだから『「ぼく(わたし)はおかあさんのおちちをのんでいないんだ』って、ざんねんがたりする必要はないんだよ」としている。

なお、人間の子どもに対する粉ミルクでの授乳を描いた絵本を探すため、「児童書総合目録」について「ミルク」を検索語として資料収集したが、主に幼児におやつとして与えるものとして描かれており、乳児への哺乳ビンでの授乳を描いた絵本はほとんど見出すことができなかった⁴⁾。

父親については、「おとうさんにはあげないよ」(資料 4) などと脇役としては登場するものがあるが、授乳者としては描かれぬ。『おとうさんのおっぱいなぜあるの』(資料 6) では、「ひとにとってたいせつでだいじなところは おとこのひともおんなのひともおなじようになっているのです」「ちがうところは たがいにくめをたすけあうようになっているのです」と母親の母乳授乳を前提として母乳の出ない父親の乳房がもつ意味を解説することで、生命の成り立ちや身体的な性差について説明している。

第 3 に、個々の母子の関係を越えた母乳のコスモロジーとでもいえる側面が描かれている。日本各地の産育習俗のなかには、イチョウの大木の気根を乳房になぞらえ、乳の出をよくする願をかけることなどが知られている。人工栄養が利用できない状況下で、自身の努力や意志では如何ともし難い母乳分泌と子どもの命であったことがうかがわれ、戦時下の子どもへの思いを描いた『おっぱいじぞう』(資料 1) はそんなつらい母親の思いを描いている。これとは対照的な「そらのおかあさん」という架空の存在を描いた絵本もある(資料 36)。

今日では、西洋医学に基づいた母乳観・授乳観が浸透し、母子関係形成との関連が指摘されて、自分の子ども以外への母乳授乳を行うことなど通常の状況では考えられない時代となったが、絵本のなかには個々の母子関係を越えるような母乳観・母親観が描かれていることが注

目される。一对の母子の関係、母親が母乳や乳房と分かち難く我が子に愛され我が子を愛する存在として描かれる一方で、他の種の動物に授乳する動物の母親、そのあかちゃんのために奮闘するおばさんたちのように、我が子以外の命をも養う善意やバイタリティーを感じさせる存在が描かれている。

3. 家庭科保育学習教材としての検討

以上のように、絵本のなかの授乳の描かれ方についてみてきた。

家庭科保育学習における絵本は、他の領域とは異なり、幼児にとっての絵本という視点で位置づけられ、言葉の発達の項や遊びについての学習、子どもとのふれ合い体験とのかかわりで取り上げられる場合が多い。では、養育行動を描いた絵本は生徒自身の子育ち・子育てについての理解にどのように活用できるだろうか。

この点については、保育学習を構成する「育つこと」と「育てること」の2つの側面と時間軸で焦点化される3点、すなわち「育てられてきた自分」(過去)と「幼い人とかかわる自分」(現在)、「幼い人を育てる自分」(未来)に焦点を当てた学びの教材として考えてみる必要がある。

中学校段階では、自身の生育史を振り返り、家族の役割を理解したり、子どもの発達を理解し、幼児とのふれ合いなどから、幼い人々への興味・関心をもって、現在およびこれからの子どもにとってのよい環境を考えることが求められる。これに対し、高校段階では「育てられている」視点から未来に向けて「育てる」ことに、よりシフトした学習が行われる。男女共同参画時代の家庭科保育学習では、男女が共に担い合う子育てや保育環境の整備について学習している。一方で、高校の教科書では、これまで「授乳・離乳の支援ガイド」⁵⁾などと同じく、母乳の利点について成分上の利点、母子関係形成上の利点が挙げられるなど授乳が栄養面だけでなく、母子の関係づくりに重要であるという位置づけを与えられてきた。人工栄養・混合栄養の2次的手段としての位置づけは変わらないが、近年では父親による哺乳瓶による授乳の写真が掲載される教科書もみることができるようになった。

身近な乳児の授乳や子育てなどを見た経験・記憶があまりないなかで、自分の生育史をたどる授業が行われる

が、その際には自身の出生時の体重や身長、親に聞いた幼い頃の話や幼少期の写真などが手がかりとされている。授乳を描いた絵本は、子どもの成長する姿、子育てや親の思いを視覚的に具体的に捉えやすいことから、乳幼児期の子どもを思い描き、育てられてきた自分と親の思いやかかわりに気づく教材として活用できると考えられる。教科書の授乳や離乳といった内容も知識だけでなく、親子のかかわりのなかで捉えられる。母親の乳房などの絵の描写によっては、思春期の生徒の羞恥心への配慮は必要になるが、写真等に比べると受け入れやすいのではないと思われる。さらには、生育史をたどる授業につきまとうプライバシーへの配慮など生徒個人の資料を用いないという手法としても、活用できるのではないだろうか。また、中学生・高校生として周囲の親子に目を向けたり、自身の将来の子どもとのかかわりを考える手がかりにもなると考えられる。

しかし、今回対象とした絵本について、このような活用を考える際には、すべての子どもが母乳栄養のみで育つわけではない実態との乖離があり、父親のかかわりがみえないこと、女兒が男児に比べ幼い弟妹の世話をする「小さいおかあさん」として描かれたり将来の母親として描かれていたことに十分注意すべきであると考えられる。

今回対象とした絵本は1980年代以降2010年代までのものであった。時代背景により絵本も変化していく面があると思われるが、父親の位置づけや人工栄養への配慮など、養育行動に関する絵本を分析的な視点で捉えることの重要性とそのための情報をまず、教師がもつことが必要と考える。そして、このような分析的視点が、幼児向けの絵本の選択や製作の際にも活かされることが期待される。

まとめ

人間は哺乳類であるが、栄養法は多様である。父親や保育者など、授乳者も生みの母親に限定されてはいない。一方で、母乳栄養率の低下から、1970年代後半以降の母乳推進運動を経て母乳育児支援が進む中、母乳栄養以外の母親が追い詰められる弊害が指摘されている⁶⁾。

今回対象とした1980年代以降の絵本では、父親のミルク授乳などの姿は描かれず、他の哺乳動物同様の「自然」なこととしての母乳授乳の姿が描かれ、母親の子ど

もへの思い、子どもの母親への思いなど母子を中心に描かれていた。

1冊1冊の絵本は、読み聞かせるおとなと子どもの関係性や読み聞かせ方により、人と絵本とのかかわりの中で活かされるものである。したがって、同じ絵本が読み聞かせるおとなや子どもを取り巻く状況や個性により一様な影響を及ぼすということはないだろう。おとなと子どもが共有する時間の豊かさは、絵本のストーリー分析だけで捉えきれものではない。

しかし、一方で、今回捉えたような授乳を描いた絵本の中の母親・父親、女兒・男児にみられるジェンダー・バイアスの存在や母親観、そして授乳の実態への配慮についての情報や視点をもつことは、保育学習の教材としてこれらの絵本を活用する際において、重要であると考えられる。

これまで、子どもに影響を及ぼすものとしての絵本をジェンダーの視点から読み解く研究が行われてきた⁷⁾。そして、多様な家族が描かれた絵本を家庭科教育に活用することについての研究もある⁸⁾。家庭科保育学習においては、特に養育行動を描いた絵本の教材としての検討を行い、従来の子ども向けの児童文化財としての絵本を捉える保育学習との関連も含め検討する必要があるだろう。今回の授乳に焦点化した絵本分析を、そのような取組みの基礎資料としていきたいと考える。

付記) 本研究の内容は、日本家政学会第 69 回大会(2017年5月)において一部を発表した。

注)

1) 永尾忠子(1983). 保育教育の教材と指導法の開発—布の絵本の作成から実習—, 日本家庭科教育学会誌 26 (1), 78-83.

立山香(2013). 絵本を用いた園児とのかかわりを促す保育体験学習, 日本家庭科教育学会誌 55(4), 246-253.

2) 金子省子(2011). 母子保健領域と家庭科における養育者観—授乳記述の変遷から—, 家庭教育研究所紀要 33, 5-11.

3) 1974年WHO総会決議により、母乳代替品のサンプル配布や広告の自粛が始まり、その後日本の母乳

推進運動のスローガンが掲げられた。

- 4) 動物の子どもが擬人化されたシリーズで、主人公のグーが妹のスーに哺乳瓶でミルクを与える場面がある(絵・堀口忠彦 文・日暮真三 ふたりはなかよし:グーとスー11 ミルクをあげて 講談社 1992) また、人間の女兒「なっちゃん」があかちゃんの世話で忙しい母親を気遣い、背伸びをしつつ「ちょっとだけ」甘えようとするストーリーで、自分で初めてミルクをコップに入れる場面に描かれた後姿の母親が、キッチンでミルク作りをしているように見える(作・瀧村有子 絵・鈴木永子 ちょっとだけ 福音館 2007)
- 5) 厚生労働省(2007).「授乳・離乳の支援ガイド」
- 6) 毎日新聞「母と乳 第2部」(2015年12月9~11日)など、産後の切実な問題として取り上げられている。
- 7) 武田京子(1999).『こどものとも』に表れた性差 岩手大学教育学部附属実践研究指導センター研究紀要 9, 51-61.
草谷桂子(2002). ジェンダー・フリーで楽しむ子どもと大人の絵本の時間. 学陽書房.
- 8) 堀内かおる(2011). 男女共同参画の視点による絵本に描かれた家族像の分析—家庭科教材としての有用性について—, 横浜国立大学教育人間科学部紀要 I (教育科学) 13, 157-173.

